

報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

農地で太陽光発電

原発代わり 農家も救う!?

「原発」を指して代替の自然エネルギーを模索する動きが急だ。住宅や工場の屋根ではなく、営農中の農地に太陽光発電パネルを設置する実験も進められている。発電と耕作の両面で太陽光を利用することから、名付けて「ソーラーシェアリング」。電気が生まれ、農家の収入増にもつながるといって一挙両得のシステムとは。

(秦淳哉)

千葉県原市の田園地 育っているでしょ」と青帯。青々とした苗が風に々としたネギを指さし揺れる水田の近くに、ソ た。

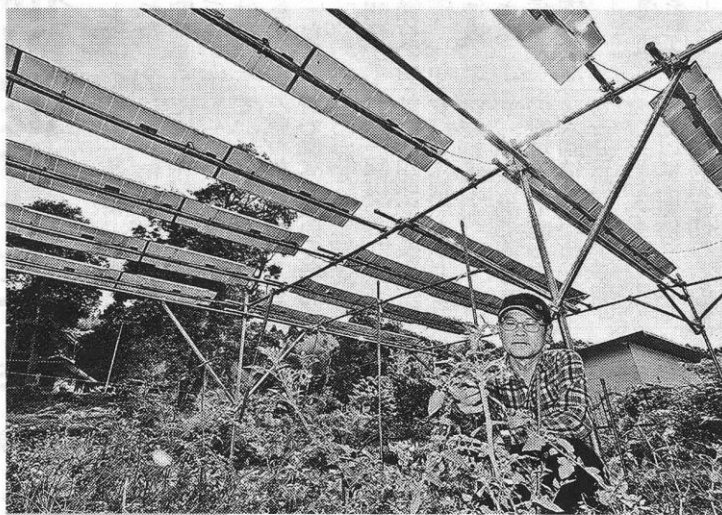
ソーラーシェアリングの実 長島さんは長く農機具実験所があった。

広さ約百平方メートルの畑の 々の発明で特許を取得し上に、高さ約三メートルの鉄パ た。六十歳で定年退職イブの棚を組み、最大で し、大学の通信課程で学一坪の間隔を空けて太陽 び直すうちに、野菜の光光パネルが設置してあ 合成生成には大量の太陽る。パネルの間からは初 光を必要としないことに夏の太陽の光が作物に注 気付いたという。そこでぐ。

実験を行うC.H.O技術 の農地を利用して太陽発 研究所の長島彬所長(六) 電をするアイデアだ。

は「どうですか?」しっかり 「千平方メートルの水田の四

パネル配置 間隔確保で作物育つ



分の一に太陽光パネルを 設置すれば、年間電力量 は約三万三千キロワット時。こ

「トマトやレタスのよ

れを売電に回せば約百四 十万円。コメの数十倍の 収入になり、後継者不足 や自給率低下など農業問 題の解決も期待できる」 と笑顔で見せた。

しかし太陽を遮って、 あっても光合成量は増え ない。太陽光パネルを間 隔を空けて設置すれば、 イネの生育に影響しない からです」。この理論を 証するために育てたのが、ネギなどの野菜だとい

栽培を継続すれば、特別 な手続は必要ないとい う利点もある。

現段階では屋外用に特 化した送電機がないな ど課題も多い。

売電収入で一挙両得

▲農耕地の上空を利用した太陽光発電「ソーラーシェアリング」の実験を進める長島さん(3日、千葉県原市原市皆吉)

たが、農地転用の手続きが必要とみられるなど、実現には高い壁があった。ところが、農作物の

「システムが普及するかどうかは政治次第。多くの人に太陽光発電と農業が両立する現場を見て、有効性を知ってもらいたい」と話している。

「システムが普及するかどうかは政治次第。多くの人に太陽光発電と農業が両立する現場を見て、有効性を知ってもらいたい」と話している。

ニュースの追跡